



St♥ry-Listening Kit

Guide

ストーリーリスニングキットに含まれるもの

● メイソン博士が紹介するストーリーのストーリー・リスニングビデオ	1	
● 学生のレベルに適応したストーリーとテキスト・プロフィール	1	
● プロンプター(図面含む)		1
● プロンプターの語彙		1
● このストーリー・リスニングキットについて	2	
● オリエンテーションで学生たちに伝えること	2	
このキットの使用方法		3
● ストーリー・リスニング セッションの準備	3	
● ストーリー・リスニングをしている間	4	
● ストーリー・リスニング後(オプション)		4
● 収集した要約をどうするか	4	
最後に		5

ストーリーリスニングキットに含まれるもの

メイソン博士が紹介するストーリーのストーリーリスニングビデオ

ビデオはそのまま学生達に見せて聞かせることもできますが、彼らの先生が直接ストーリーを語った方がより豊かで記憶に残る体験を提供する可能性があります。

学生のレベルに適応したストーリーとテキストプロフィール

話のテキストをコピーして、それをSLセッションの後に学生達に配布できます。

プロンプター(図面含む)

これは、教師がSLセッションの準備中に使用する情報です。また、学生達に話をしている時に参考資料としても使用してください。学生達には 配布されません。

プロンプターの語彙

プロンプター語彙のコピーは、テキストと一緒に学生達に提供できます。

このストーリーリスニングキットについて

- 1) このキットは、外国語の授業を学生達に提供するのを支援するために特別に設計されており、外国語の教師を目指す人に入門的指導を提供します。
- 2) 対象の学生は、高校生、大学生、および社会人が含まれます。
- 3) 小学生や中学生にも使えますが、話しの届け方が変わってきます。
- 4) 高校生や大学生の場合、テスト対策のために英語を何年も勉強し、リスニングの練習をしてきましたが、15分から30分間続く英語の物語を聞くという経験が不足していることがあります。

- 5) テストの準備のために聞くことと、話を楽しむために聞くことの間には明確な違いがあります。前者は質問に答えるために細部を注意して聞き記憶することに重点を置き、後者は物語の流れをたどり、そのメッセージを楽しむことに重点を置いています。
- 6) 年齢が高い、または外国語学習の経験が豊富な学生でも、Story-Listening はCEFRのA1やA2などの基本レベルからコースを開始します。
- 7) クラス全員が同じ学力ではなく、一部の生徒はクラスの大多数よりも習熟度が高い場合があります。
- 8) これらの学生達は、初歩的な言語からほとんど得るものがないと信じて、物語が単純すぎると感じ不満を発言するかもしれません。
- 9) そのような生徒に対応するには、ストーリー・テリング中に彼らにはなじみのないあまり頻繁には出てこない(low frequency words) 語彙や構造を含んで話を届けてはどうでしょうか。
- 10) これらのlow frequency用語は、キットの中にアカデミックおよびOFF-LISTワードの中に含まれています。
- 11) 高度な語彙を使用する場合は、他のすべての生徒が確実に理解できるように、より簡単な同義語に言い換えてください。
- 12) 英語クラスの目標は、特に初日においては、外国語で話を聞いても理解できて楽しいという成功感を与えることです。
- 13) 学生達の反応や行動に応じて、次の授業でのストーリーの複雑さと長さを調整します。
- 14) カリキュラムは、学生達の能力状況に適應します。このことは初日のオリエンテーションで説明します。つまり、最初から学期中にどういう話をどれくらいの時間をかけてするかは決定していないということです。学生達の反応によって変更するということです。
- 15) 初日に、理論、習得方法、評価方法、カリキュラムを説明することは、コースの成功に不可欠です。
- 16) 学生達がこれらの要素を理解し受け入れると、彼らからの協力を得る可能性が高くなります。

オリエンテーションで学生達に伝えること

- 1) Story-Listening (SL)を開始する前に、学生達にStory-Listening(SL)について説明を行うと、授業の進行について協力を得ることができて、SLがより良い効果を発揮します。
- 2) まず、理論と実践方法を学生に説明します。理論と実践に関してはこのウェブサイトでもコースを提供していますから、参考にしてください。
- 3) SL/GSSRとは何かの説明は、英語、日本語、スペイン語で簡単に作成されています。保護者や学校管理者に対する情報としても使用できます。
- 4) この方法は第二言語習得理論(インプット理論)に基づいており、効果的かつ効率的であることが研究から報告されており、個人的な好みに基づくものではありません。
- 5) SL方法では、物語を語る前に単語を教えたり、話の後で内容について質問をしたり、単語の練習をしたりするアウトプットの活動や、誤り訂正、そして、テストは使われません。
- 6) Optimal Input方法を使用するとき、これらの活動を除外することで進歩が加速するという理論を研究が支持しています。
- 7) 学生達には、話を聞いて楽しんでくださいと指示します。
- 8) それから、話を聞いた後、母国語で要約を書くことが要求されますと伝えます。
- 9) 要約の目的は、学生たちが教師に自分たちがどれくらい理解できたのかを伝えることです。
- 10) 要約は彼らを評価し採点するためではなく、教師が次のSLセッションを準備するためのものでもあるのだと伝えます。
- 11) 要約を書くために、話を聞きながらメモを取りたい学生もいるので、事前に紙を用意しておくとういでしょう。
- 12) 要約を書かせて集めておくもう一つの理由は、彼らの進捗状況を追跡するのも役立つからです。
- 13) 最終評価では、学期の最後に学生達は先生から聞く話の要約を書いて提出します。その時には、できるだけ詳しく理解できたことは全て書きなさいと指示します。この時は普段より多くの時間が与えられます。
- 14) 定期的な授業への出席、物語の聞き取り、要約を毎回書くのは、期末試験の準備の一部でもあると伝えます。
- 15) 期末試験では、30分間、新しい民話を聞き、その要約を書きます。
- 16) 良い成績を収めるためには、授業に毎回出席して注意して話を聞き、理解できた内容を書くだけで良いと伝えます。
- 17) 定期的に授業に出席するだけで、リスニング・スキルと語彙を自然に養成できます。
- 18) これは学生への注意事項ですが、すべての物語が非常に面白いとは限らず、面白くなくても多少我慢する必要があるかもしれないことを学生たちに指摘してください。また、目的は物語を聞くことを楽しむこと

ですが、授業は娯楽ではなく、学習のためであること。教師は芸人や漫画家ではないので、そういうことを期待しないようにと伝えてください。

19) 外国語指導の効率的な方法としてSLを使用していると伝えてください。

このキットの使用法

ストーリー・リスニング セッションの先生の準備

- 1) ストーリーテキストを読む: テキストを注意深く読んで、ストーリーに慣れ親しんでください。
- 2) プロンプターの語彙を確認する: 語彙リストを確認して、ストーリーを話すときに役立てます。
- 3) 単語の追加または削除: 必要に応じて単語を自由に追加し、あなたの学生達にとって不要と思われる単語は無視してください。
- 4) 自宅でのリハーサル: 効果的に準備するために、自宅でストーリーを語る練習をします。
- 5) 聞き手達を念頭に置いてリハーサル: 学生達にプレゼンテーションをしているかのように練習を行い、話を自分の学生達にとってよく理解できて面白くなるように工夫します。
- 6) プロンプターを使用する: プロンプターとその語彙をガイドとして使用して練習します、ストーリーを伝え、それに付随する絵を練習します。
- 7) 説明を即興で行う: 新しい単語を説明するのに、他により良い方法に気がついた場合は、その方法を自由に使用してください。
- 8) 複数回のリハーサル: 理想的には、プロンプターに頼らずにストーリーを伝えることを目指し練習します。

ストーリーリスニングをしている間

- 1) どの単語を使うか: プロンプターのすべての単語を使用する必要はなく、あなたの学生達のために必要な単語を使って話の説明をしてください。
- 2) 確認する: 生徒がストーリーをフォローしているかどうかを定期的を確認し、「いいですか?わかりましたか?」と聞いてください。
 - 1) 「わかりません」と答えたときは、どこから分からなくなったかを尋ねて、そこからもう一度話してください。

ストーリーリスニング後(オプション)

- 1) テキストと語彙を配布する: 学生達にとって役に立つと判断した場合は、テキストとプロンプター語彙のコピーを学生達に渡します。彼らはそれを見て、要約を書いてもよろしい。
- 2) 要約の書き方: 生徒に白紙の紙(A-4または米国の文字サイズ)を渡して、母国語で要約を書かせます。
- 3) 学生情報: 用紙の上部に名前、学生証番号、日付を書いてもらいます。
- 4) 概要のガイドライン: 10分程度でストーリーの簡単な説明を書くように指示します。
- 5) 自己評価: ストーリーの理解度を、要約の最後にパーセンテージまたは簡単な絵文字で評価してもらいます。
- 6) 時間配分: 要約を書くために約 10 分を割り当てます。
- 7) 要約の収集: 要約は参照用に保管し、学期の終わりまで返却しないでください。

集めた要約をどうするか

- 1) どれくらい理解できたかの情報を得る: 要約を通して、生徒がストーリーを理解しているかどうかを評

©story-listening.net

価します。

- 2) 進捗状況の評価: 要約を使用して、生徒がどの程度理解したかを評価し、今後のストーリーと指導方法を計画します。
- 3) 長期保存: 各生徒の要約を個別のファイルに保存して、簡単にアクセスして確認できるようにします。
- 4) 要約は学期末まで返却しない: 要約は、進捗状況の記録として、また最終採点の参考として学生ファイルに保管します。
- 5) 授業中のその他の活動: 時間に余裕があれば、生徒にテキストを読み聞かせます。
- 6) 指導方法の調整: 各学生達のレベルを理解しながら、それに応じてストーリーテリングの仕方とどんな単語を使うかを調整します。学生達がリスニングに慣れてきて、先生が学生達の様子がわかってきたら、要約を書かせる必要はなくなります。余った時間にもう一つのストーリーを話します。
- 7) プライベートレッスン: マンツーマンのレッスンでは、学生の理解と進歩を直接観察できるため、要約は必要ないと思います。
- 8) フィードバックと計画: 要約は、学生達の理解度、楽しさ、および話のどこの部分がわかりにくかったかに関する貴重なフィードバックを提供しますから、次にどんな話をしたら良いのかどのように話したらいいのかという準備に役立ちます。

最後に

- 1) 学生達が要約を書くとき、彼らは黒板を一瞥して物語の出来事の順序を確認する場合があるので、大きな幅の広い黒板があると好ましいです。
- 2) 黒板の左側から話しながら絵を描くことを開始し、徐々にストーリーを右に展開していき、ストーリーを最初から最後まで視覚的に理解できるようにすると好ましいです。